

## インタビュー 命より大切なものはない

アルジェリアテロ事件では、日本人10人を含む40人が犠牲になった。10人の日本人犠牲者は全員が日揮の関係者だった。事件当時、同社の社長を務めていた川名浩一さんに話を聞いた。

株式会社レノバ 取締役会長

川名浩一さん

### 徹して犠牲者の側に立つ

— 川名さんは事件直後に自ら現地へ飛び安否確認にあたられました。

重い事実であり、筆舌に尽くし難いものがあります。それでも、日本企業で安全対策に携わる人たちに何らかのメッセージをお伝えすることが、私の重要な役割だと受け止めています。

安全対策の99%は事件・事故を起こさないためにあります。それでもあとの1%、命に関わるような事件や事故が起こってしまったときに何が大事か。3つあると感じています。

1つ目は、経営者の基本姿勢です。作家の村上春樹氏は2009年にイスラエルの文学賞である「エルサレム賞」を受賞しました。イスラエルによるガザ侵攻で大勢のパレスチナ人が犠牲になっている最中にあえてイスラエルへ。授賞式での彼のスピーチは、「もしここに硬い大きな壁があり、そこにぶつかって割れる卵があったとしたら、私は常に卵の側に立ちます」。卵の側である、被害者とその家族側に立つことこそ経営者の基本姿勢でなければなりません。

また、グローバル企業として守る対象は自社の日本人社員だけでしょうか。「さあ今一緒に逃げよう」と頭や顔を布で覆い、アルジェリア人スタッフに助けられた日本人社員もいました。アルジェリア国軍の兵士が身を挺してくれただお陰で何とか避難することができた日本人社員もいました。そんな同じ仕事に携わる全

ての仲間を国籍に関係なくフェアに、何としても守らなければならないと思いました。

2つ目は、情報公開。対外への情報はオープン・迅速であることが第一です。しかし一方で、オープンにした情報が犯人たちを利する可能性もあります。情報管理には細心の注意を払う必要があります。

3つ目はプロジェクトマネジメントの重要性。事件や事故には、被害者の家族だけではなく、政府関連機関、マスコミ、会社の客先・取引先など、様々な関係者がいます。対策組織を立ち上げて、対策本部長以下、IRや各事業部の全員が、誰に対していつどんなアクションが必要なのかを優先順位付けし「見える化」し、できる限りの最善を尽くしてくれました。情報が錯綜してパニックになりがちなかからこそ、的確なアクションをとるためにプロジェクトマネジメント的な対応が重要になると痛感しています。

### 多様性を取り入れ判断の軸を太く

— 事件や事故に備える、あるいは未然に防ぐために何をすればよいでしょうか。

安全だと思われている場所でも事件・事故は起こり得ます。同業他社のフランス人の知人は、2015年11月のパリ同時多発テロ事件の時、事件現場の1つであるパタ克蘭劇場にいました。彼は日頃から安全を強く意識していて、非常口の位置を確認しておいたと言います。おか